

【熊本S. J. C. D. 例会 抄録】

演 題 歯の長軸方向を考慮した支台歯形成

演者名 陶山新吾

日 付 2016年3月22日

keywords

1. 支台歯形成
2. 歯の長軸方向
3. マイクロスコープ

抄 録

緒言：熊本SJCDの顧問である西川義昌先生の著書である“Tooth Preparation”（2012）で『修復物の形態は支台歯形成によって規定されることから、クラウン装着後の機能的回復にはその基となる支台歯形成が重要な関わりをもつ。』と言及されている。ここでは、歯の長軸方向を考慮した支台歯形成について、第一面は歯の長軸方向を基準に設定し、さらに第2面目はスリープレーンコンセプトの中央基準面を、第3面は切端（咬合）基準面を参考に設定し形成を行うコンセプトだ。

患者の概要：初診日2014年7月4日 59歳女性 検診を受け、う蝕・歯周病と指摘され当医院受診した。種々の基礎資料と診断用Waxupから、下顎前歯部に若干の叢生を認めたが咬合に関しては問題はなく臼歯の歯冠修復を行うこととした。

臼歯部に歯の長軸方向を考慮して支台歯形成を行い、プロビジョナル・レストレーション・リマーキングを繰り返し、西川先生の支台歯形成のコンセプトにしたがってPFMを装着した。

今回、患者の#16#46についてフォーカスをあて、学んだコンセプトが実践できているか自分なりに検証したので報告する。

諸先生方のご意見、ご指導宜しくお願い致します。